

## 自閉症児の言語・認知神経心理学的諸能力の発達に関する臨床研究—精神遅滞児との比較—

木村亜由美

### <目的>

自閉症児に対する言語治療の効果と限界を明確にすることを目的に、以下の研究課題を設定する。

- 1) 音声言語を主とした訓練を実施した自閉症児の言語や知的諸能力の実態把握
- 2) 早期言語訓練効果検討のため、訓練開始年齢の異なる自閉症例で言語や知的諸能力を比較

これらの結果から、初診時の自閉症児特有の症状、早期訓練の意義等を検討する。

### <症例>

1996年4月～2007年9月末の11年6ヵ月間、ことばの遅れを主訴に藤本耳鼻咽喉科クリニック（岡山市、以下Fクリニック）で言語訓練を実施した自閉症児8例と比較対照群の精神遅滞児（Mental Retardation：以下MR）8例を対象とした。

自閉症群の初診平均年齢は5歳11ヵ月、平均訓練期間は4年5ヵ月、MR群の初診平均年齢は5歳11ヵ月、平均訓練期間は4年6ヵ月であった。

### <研究の方法>

Fクリニックでは4名の言語聴覚士が訓練を実施しながら定期的に言語・認知諸能力の評価を行い、その結果は診療録に記載されている。著者はその診療録から以下の項目を抽出、整理した。

- 1) 初回医療面接時の予定、独歩、初語の各年齢、初診時の親の主訴からみた自閉症児とMR児の比較
- 2) 音声言語を主とした早期言語訓練を実施した自閉症児とMR児の発達、知能、聴覚的語彙理解力、読書能力を年齢別に比較
- 3) 自閉症群8例から抽出した6例を言語訓練開始年齢の違いで2群（就学前訓練開始群、就学後訓練開始群）にわけ、言語や知的諸能力を比較

就学前群の初診平均年齢は2歳9ヵ月、平均訓練期間は3年2ヵ月、就学後群の初診平均年齢は8歳3ヵ月、平均訓練期間は6年1ヵ月であっ

た。

6例では、知能、聴覚的語彙理解力を年齢別に比較した。

### <結果>

1) 発達と主訴：自閉症群では予定、独歩の遅滞はほぼなかった。初語は両群とも7～8ヵ月遅滞した。初診時の主訴は、「多動が気になる」、「視線が合わない」など、自閉症群特有のものがあつた。

#### 2) 自閉症群とMR群の比較

(1)遠城寺式発達検査：自閉症群では、対人、発語、理解の3項目の遅滞が顕著で、MR群は全項目の遅滞が顕著であった。

(2)全般的知能：精神年齢は、自閉症群では12歳代で7年遅滞、MR群では5年半の遅滞で、自閉症群の遅滞が大きく、かつ自閉症群は7歳代以降伸び悩んだ。

(3)動作性および言語性知能：動作性知能は自閉症群がMR群より高く、言語性知能は自閉症群がMR群より低かった。

(4)聴覚的語彙理解力：両群同様の発達経過であったが、最終評価時の13歳代では、語彙年齢は自閉症群がMR群より低くなった。

(5)読書力：両群ともに評価が最も困難であった。

3) 訓練開始年齢の異なる6例（就学前群3例、就学後群3例）の比較

(1)動作性知能：個人差は大きかったが、就学前群が就学後群より高かった。

(2)全般的知能：就学前群が就学後群より高かった。

(3)聴覚的語彙理解力：就学前群が就学後群より顕著に高かった。

### <まとめ>

1) 自閉症児特有の主訴があつた。

2) 発達、知能、語彙理解力、読書能力は自閉症群とMR群で似ていた。言語性知能は7歳代より自閉症群がMR群より低くなり、言語能力の遅滞はMR群より顕著であった。

3) 就学前群の知能、語彙理解力は就学後群より高く、早期言語訓練の有効性が示唆された。

### <引用文献>

西村辨作：自閉症（カナー症候群）児の言語治療。発達心理学と医学，1：509-522，1990。